

令和5年度かわさき教師塾

☆『明日の先生日記』☆

子どもの笑顔が
あられるまち
かわさき

Colors, Future!
いろいろって、未来。

川崎市



『明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私』をイメージする学び

2月10日(土) 学校で起こりうる危険と未然防止、子どもとの教育相談的な関わり方についての講義、教師として大切にしたいことやめざす教師像と今後の取組に関する交流が行われました。

令和6年2月10日(土) 日程

- 10:05 危機管理
- 11:05 今、教員に求められること
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 13:00 受講者振り返り グループ交流
- 14:45 閉講式 事務連絡 15:00 終了



○教職員の危機管理意識の向上というフレーズを聞き、当時小学生の私が学校で東日本大震災を経験した際、泣き叫ぶ私たちに先生方は、「大丈夫だからね」と温かい言葉を掛け、適切に指示を出してくれたことを思い出した。

○『今まで事故が起きなかったから大丈夫』ではなく『もしかしたらこうなるかもしれない』というifの想像力が求められると思いました。

○子どもの命を預かっているからこそ、学校という場所の危機管理は教員が深く考えていく必要があると学んだ。危険な場所を考える上で児童の目線になったり、行動や姿を予想して考えたりする必要があったと感じた。

○「良い子・悪い子・普通の子は1人の子の中にある」という言葉が印象に残りました。どのような子にもそれぞれの一面があり、対話を通じてその背景を探っていくことが必要であるということを変更して学ぶことができました。

○前回に続き「困っている子」として子どもをみることの大切さを学んだ。子どもたち自身が思っているからこそその行動であり、子どもが「困っている」という認識が変わった。

○教育はゼロから1を作ると言われるように本質的なところを作ることが出来るという話が新鮮であった。



【自身の変容】【こんな教員になりたい】

- ❖教師塾を受ける前は、どのような教員になりたいのか漠然と思っているにすぎなかったが、根拠づけて考えることによって、具体的になぜそうになりたいのかまで思考を深めることができたように思う。
- ❖最初よりも、自分が教員になりたいという気持ちが強くなったことが本当に嬉しいです。大変な部分も知りながらも、それを越えるワクワク感があります。早く子どもたちに会いたいです。
- ❖第1回に考えた「どんな教師になりたいか」という自分のものと比較して再考しました。この6日間を通して、自分の考えが変わったり引き出しが増えたりすることができたと感じました。
- ❖子どもたちの困り感をいち早く見つけ、「何に困っているんだろう」「得意なことなんだろう」「得意なことや興味がありそうなことを伸ばせるように考えてみよう」など、新しい視点で物事を考えて、サポートできる教師になりたい。
- ❖全12回を振り返り、自分と向き合うことが出来ました。どんな教員になりたいのか見つめ直す機会はないと思います。この思いを忘れずに教壇に立ち、「初心忘るべからず」で過ごしていきます。
- ❖教師として大切にしたいことを、①学び続け②子どもを価値づける居場所をつくり③チームとして協働するというキーワードを元にグループ内で意見交流し、思いを言語化することができました。
- ❖生徒の目線になって、日常的なコミュニケーションから一人ひとりの些細な変化を感じとり、常に丁寧に寄り添うことのできる存在になりたいと強く思いました。
- ❖「こんな教師になりたい」という目指す姿(ゴール像)を実現するため、「明日から取り組めることや教員になってから取り組みたいこと」を言語化することで、さらに自分の教育観が明確になった。
- ❖教員は宝探しという言葉のように、毎日会う子どもたちの中に眠っている宝を輝かせられる教員になりたいと強く思いました。



【かわさき教師塾を受講して】

- ◇児童生徒理解という言葉が一番頭に残りました。児童生徒のことを理解していないと一人一人の些細な変化などに気づくことができず、問題や不安を抱えている子を見つけるのが遅くなってしまふことが私も中学生の時に経験したためよく分かったからです。
- ◇学校で教育活動をしていく上で最も大切なことは、「安心・安全な学校づくり」だと思います。そうした学校で学ぶからこそ、笑顔溢れる学校生活を送ることができるのだと思います。
- ◇グループ活動を通して、自分では考えられなかった角度から考えられるようになった。子どもたちにも「一人ひとり違いがあるから色々な意見が出て考えを深めていけるのだ」ということを伝えていきたい。
- ◇漠然と持っていた教師の理想像を書き起こし、グループ内で話し合うことで教員としての明確な目標が設定でき、教員になりたい思いはより強まりました。川崎市の教員として少しでも貢献できるよう、引き続き大学での学修にしっかりと取り組んでいきます。
- ◇同じように教員を目指している人たちの目指す教員像を知ることもできたことで、どのような教員になりたいかを改めて見つめ直すことになり、さらに自分の中のモチベーションが高まりました。
- ◇学んできたこと見直すことで、「子どもの意見を最後までじっくり聴くこと」を通して児童理解を深められる教師になりたいという考えと、「みんなが認め合い、安心、安全に居場所だと思える学級をつくりたい」という考えが自分の中で軸にあることが理解できた。
- ◇子ども達を支えていくためには、直面する様々な課題やトラブルなどへの意識や責任を持たなければと感じた。苦勞や困難を伴うが、成長できる証であり、恐れずに向き合っていく大切さを学んだ。
- ◇みんながってあたりまえ、そしてできないことがあって当然、その考えを常に頭に入れ、児童と一緒に乗り越えたり成長したりできる教員でありたいとも思った。



9月30日(土)、今年度から大学2年生がかわり、また、遠方から通ってきてくれた皆さんもあり、例年以上に多くの仲間との教師塾がスタートし、全て集合形式で開催できました。全6日間の受講、ありがとうございました。同じ志をみつめる多様な仲間との出会い、相手の言葉に思いを向けて受け取り合う、様々な見方や考え方を丁寧に紡ぎ合う、受講生同士の「緩やかなつながり」が築かれていました。それこそが、川崎市がめざす「一人ひとりの違いが豊かさとして響きあう」学びの姿です。「明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私」…皆さんと一緒に「明日」の子どもたちの成長に携われる日を心待ちにしています。

